

(豚)  
子豚生産頭数は、年々急速に増加し、四十七年には四十六万九千頭が生産され、そのうち七九%が県内で飼育され、残り二一%が県外に出荷されています。肉豚生産頭数は、旺盛な食肉需要にささえられ、四十七年には三十五万四千頭が生産されましたが、そのうち約四〇%が県内向けに残り、六〇%が県外に出荷されています。

流通量の約四〇%は生体輸送であり、目減り、事故等の問題があります。このような流通問題を改善するため、四十六年度から四十七年度の二ヶ年にわたって総事業費約十一億円を投じて熊本県畜産流通センターが菊池郡七城町に建設されました。四十八年度に畜産流通センターで処理された頭数は、肉豚で約八万八千頭で、これらの枝肉またはカット肉は、京浜、関西及び北九州等の大消費地に出荷されていますが、更に加工工場を誘致し、産地処理加工体制の確立を図る構想を進めています。

(鶏卵)  
鶏卵の生産量は、旺盛な需要にささえられ四十七年には約三万トンが生産されました。地域別では、県北の玉名、鹿本、菊池及び宇城地方で県全体の約七〇%が生産され主要な産地を形成しています。鶏卵の出荷量は、生産量のおよそ約九

〇%にあたり、出荷量の約七〇%は七三%が県内向けに出荷されています。県外出荷は、九州管内では北九州方面に、九州域外では、京都および兵庫県が主となっております。

(鶏肉)  
鶏肉(ブロイラー)の生産量は、四十七年には約六百七十八万羽の一万三千トンが生産されています。ブロイラーの出荷量のうち約八六・八九%が県内向けに出荷されています。

### 畜産物の生産目標

昭和五十七年を目標とした農林省の「農産物の需給の展望と生産目標の試案」によりまずと所得水準の向上、食生活の多様化に伴い、牛乳の需要量は、これまでに比べて鈍化が予想されるものの、国民的食料として、今後とも飲用牛乳、乳製品ともに増加し、五十七年度の全体需要量は、四十五年度の二倍弱の約九百二十万トン程度になるものと見込まれています。

飲用牛乳は鮮度が要求され、重要な国民栄養源であることから品質の改善、生産性の向上を図りながら国内で完全自給をします。乳製品については、国際競争力を高めつつ極力国内で自給することとしています。このことから、五十七年の生乳生産量は約八百五十万トン程度を目標とし、自給率は現状程度を維持することを考えています。

成等総合的養豚振興対策を推進することとしています。

(鶏卵)  
昭和五十二年の鶏卵生産量は三万トンが見込まれ、生産量の四〇%を県外の消費地に供給できる体制を確立することとしています。

採卵鶏経営では六千羽程度の専業経営が増加することが予想されます。今後は、需要の動向に対応して生産の安定と流通の合理化等を図るとともに、経営環境保全対策を拡充し強化するため、鶏卵の需給調整、環境対策の強化、衛生対策の拡充を組織的に推進することとしています。

表6 畜産物自給目標

区分	年次	45年	57年
牛乳乳製品		89%	87~97%
肉類		88	82~97
鶏卵		97	100

表7 熊本県畜産物生産目標

	45年	52年目標
生乳	96,000 t	160,000
肉牛	26,000 頭	69,000
肉豚	192,000 頭	500,000
鶏卵	22,900 t	30,700
肉豚(ブロイラー)	9,290 t	13,500

(鶏肉)  
昭和五十二年の鶏肉生産量は一万四千トンが見込まれ、生産量の一五%を県外に移出する生産体制を確立することとしています。ブロイラー経営では、五万羽程度の専業経営が増加し、生産の中核的な担い手になることが予想されます。今後は、環境保全対策の強化、大規模化に伴う衛生対策の拡充を組織的に推進することとしています。以上のような施策の推進によりまして、本県の畜産が、我が国の食糧供給基地として大きな期待がもたれることとなります。

## 熊本県農業研究実践集団からのレポート

### 東部外輪地区農業経営改善への提言

#### 阿蘇中部農業経営改善研究会

(一)肉用牛の飼養は粗飼料特に貯蔵体系の確立が望まれる。飼養技術の改善

資質の改良と併行して現在の受胎率六〇%を九〇%まで引き上げるべく技術

食肉については、食料消費の多様化、高度化に伴いその需要は急増しています。この傾向は今後も持続して、五十七年には一人当たりの需要量は四十五年の二倍の二十三キロ程度になるものと見込まれています。一方、国内生産量は、豚肉、鶏肉生産の規模拡大等を通じて五十七年には四十五年の二・三倍の約三百五十万トンを目指し、自給率は九〇%程度を確保することを考えています。

鶏卵の消費量は、欧米先進諸国なみの高い消費水準に達したことから最近その伸びは鈍化に転じており、今後は人口増加を見込んで消費の伸びは年率二%程度で推移し、五十七年の総需要量は四十五年の二割増の二百二十七万トン程度と見込まれ、国内で完全自給することを考えています。

以上のような国の自給目標に対応して、県は、昭和五十二年を目標とした農業計画の生産目標を策定しております。この農業計画における畜産物の生産目標は種類別には次のとおりです。

### (生乳)

昭和五十二年の生乳生産量は、十六万トンが見込まれ、生産量の五〇%以上を関西方面の消費地に供給する生産体制を確立します。酪農経営は、三十頭以上規模の専業経営が増加することが予想されます。

今後は、生産性の高い専業酪農経営を育成するため、飼料生産基盤の強化、経営技術の向上、乳質の改善、集乳の合

理化を進め、生乳生産供給県としての確立を図ることとしています。

### (肉牛)

昭和五十二年の肉牛生産量は六万九千頭が見込まれ、生産量の七〇%以上を県外の消費地へ供給できる生産体制を図ることとしています。

繁殖経営では、高原地帯を中心に二十頭程度、平土地では十頭程度の他作目との複合経営が増加し、肥育では、二百頭程度規模の専業経営が増加することが予想されます。

今後は、急増する需要に生産県として対応するための未利用資源の高度利用を図り飼料基盤の整備、繁殖から肥育に至る生産団地の形成による肉用牛経営群の育成を図ることとしています。

また、新たに、本年度より高原地帯を中心に肉用牛の畜産基地建設をめざして、広域農業総合開発事業が開始されることになっています。

### (肉豚)

昭和五十二年の肉豚生産量は五十万頭が見込まれ、生産量の七〇%以上を県外に移出する体制の確立を図ることとしています。

繁殖豚経営では、五十頭以上の専業経営が増加し、肥育豚は、六百頭以上の専業経営が増加することが予想されます。今後は、生産環境問題等養豚をとりまく諸問題に対処するため、養豚団地の育

対策を図る。なお受胎率向上と共に多頭化も経営規模に準じて推進する。

(二)野菜ではキャベツ、ばれいしょが柱で単位生産量において三・五t〜四tが目標でありかんらん?tを目標にしている。キャベツ、ばれいしょの

### 西部近郊畑作地区農業経営改善への提言

#### 玉名北部農業地帯農業経営改善研究会

野菜は、ほとんどトンネル露地型栽培であり施設園芸の鉄骨パイプハウス型の導入と灌水施設の装置を計り早進化と収量、品質の改善に資本整備を行いその実現に努力したい。肉牛は計画的な導入にあるため仕上畜舎の施設を

生産安定のため栽培技術の改善はもろんキャベツに対しては特に品種雑多であり今後は品種の厳選が望まれる。市場流通との連携をたもちながら出荷時期規格の検討等農協を中心とした組織を通じて取りくむ必要がある。

### 生産力の向上について

#### 1) 現況

作目	当		問題点
	単位生産力	労働時間	
西瓜	3,000 kg	418	出荷体制及び施設の不備
プリンスメロン	2,000	400	"
結球白菜	4,000	150	集出荷体制の不備
肉牛	550	45	素手価格変動が大きく購入飼料高騰

#### 2) 目標

作目	当		技術体系	資本設備
	単位生産力	労働時間		
西瓜	6,000 kg	515	接木育苗、施設の改善	パイプハ棟育苗施設、パイプ共同灌水機械化
プリンスメロン	2,000	550	施設改善	"
結球白菜	4,200	120	露地8月中旬播種	灌水防除施設